



学校だより

はと広場

北小 Revival～ありがとう 75 年 100 年に向かってスタート

10 月号

令和 3 年 9 月 30 日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

協働～良い縁になる～

校長 三村 悟

明日から10月。緊急事態宣言がようやく解除となり、暗闇の向こうに少しずつ灯りが見えるようです。とはいえ、気を緩めることは出来ません。今月も感染症対策を徹底し、運動会で躍動する児童の姿を、保護者の皆さんに応援して頂けるように努めていきます。

初めてハイブリッド授業に取り組んだ9月は、多くの苦労もありましたが、学んだこともたくさんありました。Teams を利用した双方向のオンライン授業をはじめ、学校安心メールを利用しての毎日の情報発信、Forms を利用してのアンケート実施、学校 Web ページへのパスワード設定など、これまで構想レベルだった ICT 活用を現実のものとして日々の教育活動に取り入れました。半月ほどの間に一気に前進できたのは、教職員の果敢な取り組みと、それを受け止め応えてくださった保護者の皆様の協力があったからこそと感謝いたします。学校と家庭との協働による成果です。

昨年度から全面実施となった小学校学習指導要領では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がキーワードとなっています。一見すると相矛盾する2つの言葉ですが、これからの時代を生きる子どもたちには、この両者が欠かせないということで、そのベストミックスが模索されています。



青空通りの西洋アサガオ

4年生の体育では「ラケットベースボール」という、野球型のゲームに取り組んでいました。ティーの上に置かれたボールを打つのはもちろん楽しそうですが、守りの児童も生き生きと取り組んでいます。どうしてだろうと思って学習ボードを見てみると「鉄壁の守備に挑戦をしよう」と書かれていました。チームでカバーし合う動きに取り組んでいるのです。

ボールを追いかけて捕った児童はベースに向かって投げるのですが、うまく味方に届かずに外れてしまうこともあります。そんな時、カバーに入った児童がすかさずボールを拾ってアウトにします。もちろん、投げたボールがうまく味方に届いたときは、その時点でアウトになるのでカバーに入った児童の出番はありません。それでもチームの仲間と一緒に「アウト！」と嬉しそうにコールする姿から大切なものを教えてもらいました。

そこにあったのは、自分の出番があっても無くても「カバーする」という役割の意味を知り、その価値を仲間と一緒に認め合える喜びです。自分がチームや仲間にとって良い縁になっているという喜びです。

一人一台のタブレットにより、一人一人に合った個別最適な学習が進む時代だからこそ、自分の存在の意味を実感できる協働的な学習の場面が大切になってきます。運動会への取組などを通して、協働の喜びを味わえる10月にしていきたいと思います。